

ZEPHYROS

ゼフュロス No.43

The National Museum of Western Art, Tokyo 国立西洋美術館ニュース

ISSN1342-8071



ナポリ・宮廷と美
カポディモンテ美術館展
ルネサンスからバロックまで

会期：2010年6月26日(土)～9月26日(日)

ナポリ・宮廷と美—カポディモンテ美術館展 ルネサンスからバロックまで

Napoli, la Bellezza e la Corte – Capolavori del Museo di
Capodimonte, dal Rinascimento al Barocco



《ナポリ・カポディモンテ美術館》
イタリア政府観光局



グイド・レーニ《アタランテとヒッポメネス》
カポディモンテ美術館

ナポリを見下ろす丘の上に建つカポディモンテ美術館（「カポディモンテ」とは「山の上」の意味）は、イタリア有数の美術館です。1738年にブルボン家のカルロ7世（後のスペイン王カルロス3世）によって建造が開始された宮殿が、そのまま美術館となっています。そもそもこの宮殿は、美術品を収納・展示することを目的のひとつとして建てられたものでした。というのもカルロは、母エリザベッタ・ファルネーゼから膨大な美術品コレクションを受け継いでいたからです。コレクションが展示されるようになると、ナポリを訪れる文化人たちは競ってここを訪れるようになります。その中にはドイツの文豪ゲーテら、名だたる知識人、画家たちがいました。その後さまざまな変遷をたどった後、国立美術館として一般に公開され、所蔵品を充実させて現在に至ります。

本展はこのカポディモンテ美術館の名品80点によって、ルネサンスからバロックまでのイタリア美術を概観します。展示される作品は主に、ファルネーゼ家が収集したルネサンスおよびバロック美術の作品と、ブルボン家が収集したナポリ・バロック美術の作品です。

ルネサンスからバロックまでのイタリアを代表する貴族のひとつファルネーゼ家は、過去の作品を収集すると同時に、同時代の芸術家にも積極的に作品を注文し、この時代の美術の牽引役としての役割を果たしました。ファルネーゼ家が庇護したカラッチ一族とその一派は、バロックのローマ画壇を代表する存在となります。同じ頃ナポリでは、殺人の罪を犯してローマから逃亡してきたカラヴァッジョにより、新たな美術が伝えられました。ナポリの画家たちはカラヴァッジョに倣いつつもローマの最先端



アルテミジア・ジェンティレスキ
《ユディットとホロフェルネス》
カポディモンテ美術館



ルカ・ジョルダノ
《眠るヴィーナス、キューピッドとサテュロス》
カポディモンテ美術館

の画法を吸収し、ナポリをイタリアの美術の中心地のひとつとしました。ナポリの美術は後にブルボン家によって収集され、カポディモンテ美術館に伝えられることとなります。

ファルネーゼの収集した美術品からは、美術品に囲まれた当時の大貴族の生活も垣間見えることでしょう。またナポリ・バロックの美術をまとめて展覧するのは、国内では今回が初の機会となります。南イタリア最大の町ナポリが誇る作品の数々をご鑑賞ください。

(国立西洋美術館主任研究員 渡辺晋輔)

カポディモンテ美術館展 観覧料

一般 1,500円 (1,100円)

大学生 1,200円 (800円)

高校生 700円 (500円)

中学生以下・・・無料

※()内は20名以上の団体料金。

※本展の観覧券で常設展示も併せてご覧いただけます。



エル・グレコ
《燃え木でろうソクを灯す少年》
カポディモンテ美術館

表紙図版：

パルミジャニーノ

《真婦人の肖像（アンテア）》

カポディモンテ美術館

レクチャーコンサート

「絵画から聞こえてくる音楽」—カポディモンテ美術館展レクチャーコンサート



ティツィアーノ・ヴェチェッリオ
《マグダラのマリア》
カポディモンテ美術館



演奏者

国立西洋美術館と東京藝術大学演奏藝術センターが連携して行うコンサートは今年で10年目を迎えました。この企画は、音楽を通して美術をより広い視野から楽しんでもらうことを目的とする一方で、演奏者として協力する東京藝術大学の学生や卒業生にとっては貴重な発表の場の一つにもなっています。

今年は、「絵画から聞こえてくる音楽」と題し、「カポディモンテ美術館展」の中から選び出した作品をスクリーンに映しながら、その作品と類似のテーマによるイタリア・ルネサンスおよびバロック期の歌曲を演奏します。展覧会を目と耳で共感的に味わうという趣向です。たとえば、ティツィアーノ・ヴェチェッリオの《マグダラのマリア》を見ながらフレスコバルディ作曲「宗教的ソネット 十字架の下のマッダレーナ」を、ガイド・レーニの《アタランテとヒッ

ポメネス》を見ながらカッチーニ作曲「アマリッリ、私の美しいひと」を、アンニーバレ・カラッチの《リナルドとアルミーダ》を見ながらヘンデル作曲オペラ「リナルド」より〈私を泣かせてください〉などを、お聴きいただきます。

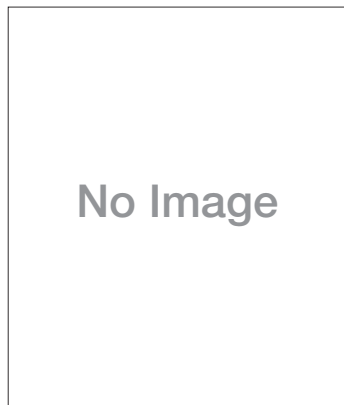
演奏者には、東京藝術大学の卒業生で国内のみならずイタリアでの活躍がめざましいカウンターテナー歌手の彌勒忠史氏、高雅な響きを生み出すイタリア人のチェンバリスト、シルヴィア・ランバルディ嬢を迎えます。例年のように瀧井敬子のトークに、今年は彌勒忠史氏も加わり、ファルネーゼ家をはじめとする当時の貴族の音楽趣味だけでなく、食卓のメニューやマナーなどの食文化もご紹介します。（チケットなど詳細は5頁をご参照ください）

（東京藝術大学客員教授 瀧井敬子）

ジョルジュ・ブラック 《静物》

今からちょうど100年前に描かれた作品が、この4月に新しく常設展示に加まりました。作者のジョルジュ・ブラック（1882–1963）は、20世紀フランスを代表する画家のひとりです。彼は1910年前後の数年間に、友人パブロ・ピカソとの共同作業を通じて、近代美術の歴史を語るうえで欠くことのできないキュビズムの絵画を生み出しました。

ブラックは、「手で触ることのできるような空間」の追求からキュビズムが生まれたと、後に語っています。彼は、ただひとつの視点から空間を眺める西洋絵画の伝統的な方法では、ものの実在感をとらえることができないと感じ、複数の視点を取り入れました。テーブルの上の静物を描いた本作品でも、中心を占める瓶と果物はさまざまな角度から眺められ、結晶の断面のような形の重なりによって表わされています。さらに、中心にある形とその周りの空間は、縦・横・斜めの線が作る幾何学的な枠組みの中で関連づけられます。周囲に描かれた



ジョルジュ・ブラック 《静物》
1910–11年
油彩、カンヴァス
33.3×24.1cm
*こちらの作品は現在、
新館常設展示室でご覧いただけます。

断片的な形や線が何を表わすのか、すべて解明することはできませんが、形と空間の新しい表現方法を探ろうとする冒険心によって、緊張感に満ちた画面が作り上げられています。

1911年から、ブラックとピカソの手法を取り入れた若い画家たちがグループとして活動を始め、キュビズムはより広範な芸術運動へと発展しました。その運動のエネルギ―は、2004年に当館が収蔵したアルベール・グレーズの大作《収穫物の脱穀》（1912年）にうかがうことができるでしょう。このたびブラックの作品が加わり、キュビズムの誕生と展開を常設展示でご覧いただけるようになったのは、非常に喜ばしいことです。

（国立西洋美術館学芸課長 村上博哉）

EVENT イベント

「ナポリ・宮廷と美—カポディモンテ美術館展 ルネサンスからバロックまで」に関連して下記のプログラムを実施しますので、ぜひご参加ください。

記念講演会

①7月24日(土) 14:00~15:30

渡辺晋輔(国立西洋美術館主任研究員)
「バロック期のローマとナポリの絵画」

②8月14日(土) 14:00~15:30

金山弘昌(慶應義塾大学准教授)
「イタリア・バロック建築への招待」

※講演会の内容は急遽変更となる場合があります。最新の情報は国立西洋美術館ホームページでご確認ください。

会場：国立西洋美術館講堂

定員：各回先着140名(聴講無料。ただし、展覧会の鑑賞については別途観覧券が必要です。)

参加方法：当日**12:00**より、館内インフォメーションにて聴講券を配付します。
なお、会場の講堂へは企画展改札(地下1階)を通過する必要があるため、聴講券のみで通過いただけるのは**13:30**以降となります。
(開場時間は各日共**13:30**)

スライドトーク

当展覧会のみどころや主な作品について、夜間開館を行っている下記の金曜日にスライドを使った解説を行います。

日時：**7月2日(金)、7月23日(金)、
8月6日(金)、8月20日(金)
9月10日(金)**

毎回18:00~(約40分)

解説：市川佳世子(慶應義塾大学大学院)

会場：国立西洋美術館講堂

定員：各回先着140名
(聴講無料。展覧会観覧券が必要です。)
*直接講堂にお越しください。

レクチャー・コンサート「絵画から聞こえてくる音楽」

出品作品をスクリーンに映しながら、展覧会を目と耳で共感的に味わう趣向のコンサートです。

日時：**7月14日(水)**

18:00~20:00 (17:30開場)

演奏：彌勒忠史(カウンターテナー)
シルヴィア・ランバルディ(チェンバロ)

企画・トーク：瀧井敬子
(東京藝術大学客員教授)

場所：企画展会場ロビー(地下2階)

料金：1500円(税込)

6月12日(土)より、

館内インフォメーションにて発売

定員：100名(全席自由)

※チケットは、館内インフォメーションのみでの販売となります。電話等による事前予約や郵送等による販売は行っておりません。

※チケットの払い戻し、再発行及び変更は致しません。

※枚数限定につき売り切れの場合はご容赦ください。

※展覧会の観覧については、別途観覧券が必要です。

Museum shop

ミュージアム
ショップ 好評販売中

マグネット 名刺サイズ12種類
370円 (税込み)

(睡蓮・ばら・果物籠・雪のアルジャントウイユ・帽子の女・
悲しみの聖母・聖なる象・鳥毘のある冬景色・ピアノを弾く
妻イダのいる室内・聖チェチリア・漁船・自画像)

- 今年から絵柄も増え、ご好評をいただいております。冷蔵庫やホワイトボードなどに並べれば、自分だけの小さな美術館ができあがります。



Cafe カフェ「すいれん」



「ナポリ・宮廷と美ーカポディモンテ美術館展」特別メニュー
「アサリとモッツアレラチーズのトマトソーススパゲッティ」 1,260円 (税込み)

期 間 2010年6月26日～9月26日

- ナポリ発祥のアサリのパスタ「ボンゴレ・ロッソ」にモッツアレラチーズをトッピングしたオリジナルメニューです。



6・7・8月のおすすめメニュー

「スズキのスープスパゲッティ」 1,260円 (税込み)

- 旬のスズキをトマトベースのスープスパゲッティに仕上げました。

チケット売場、館内施設（常設ミュージアムショップ、カフェ「すいれん」）でSuica、各種クレジットカードがご利用いただけます。（ただし、一部除外品がございます。）－ 詳細については、当館HPをご覧ください。

展示カレンダー [企画展示/常設展示] 2010年5月～2010年10月

休 館 日 土 日・祝日

MAY

5

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
フランク・ブラングイン展 (企画展示室) 最終日5月30日(日)																														
所蔵水彩・素描展—松方コレクションとその後 (新館2F版画素描展示室) 最終日5月30日(日)																														

JUN

6

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	
ナポリ・宮廷と美—カポディモンテ美術館展 (企画展示室) 6月26日(土)～9月26日(日)																														
オノレ・ドーミエ版画展 (新館2F版画素描展示室) 6月26日(土)～9月5日(日)																														
館内点検・展覧会開催準備のため臨時休館6月25日(金)																														

JUL

7

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ナポリ・宮廷と美—カポディモンテ美術館展 ルネサンスからバロックまで (企画展示室) 6月26日(土)～9月26日(日)																														
オノレ・ドーミエ版画展—『カリカチュール』と初期の政治諷刺画— (新館2F版画素描展示室) 6月26日(土)～9月5日(日)																														

AUG

8

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ナポリ・宮廷と美—カポディモンテ美術館展 ルネサンスからバロックまで (企画展示室) 6月26日(土)～9月26日(日)																														
オノレ・ドーミエ版画展—『カリカチュール』と初期の政治諷刺画— (新館2F版画素描展示室) 6月26日(土)～9月5日(日)																														

SEP

9

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
ナポリ・宮廷と美—カポディモンテ美術館展 ルネサンスからバロックまで (企画展示室) 最終日9月26日(日)																														
オノレ・ドーミエ版画展 (新館2F版画素描展示室) 最終日9月5日(日)																														

OCT

10

1	2	3	4	5	6	7	8	9	10	11	12	13	14	15	16	17	18	19	20	21	22	23	24	25	26	27	28	29	30	31
アルブレヒト・デューラー版画・素描展 宗教／肖像／自然 (企画展示室) 10月26日(火)～2011年1月16日(日)																														

※展覧会名、会期、内容等は変更されることがあります。

●常設展示

ロダンの彫刻や、中世末期から18世紀末頃までのオールド・マスターの絵画、モネ、ルノワールなどのフランス近代絵画、20世紀初頭までの絵画を展示しています。(展示作品については、館内インフォメーションでおたずねいただくか、当館ホームページをご覧ください。)

国立西洋美術館

- 所在地…〒110-0007 東京都台東区上野公園7-7
- 開館時間
通常…午前9時30分～午後5時30分
(ただし、秋の企画展閉会日以降の開館日から春の企画展開催日までの開館期間中＝午前9時30分～午後5時)
毎週金曜日…午前9時30分～午後8時
*入館は閉館の30分前まで
- 休館日…月曜日(ただし、月曜日が祝日あるいは振替休日となる場合は翌火曜日) 年末年始(12月28日～翌年1月1日)
*その他、臨時に開館・休館することがあります。
- 常設展無料観覧日…毎月第2、第4土曜日、文化の日(11月3日)
- お問い合わせ…ハローダイヤル:03-5777-8600
<http://www.nmwa.go.jp/>

※誌名について…「ZEPHYROS」(ゼフュロス)はギリシア神話の神々のひとりで、西風を司る神様の名前です。西欧では暖かさや色ざまざまの花々を運ぶ春の風をさします。

ZEPHYROS

ZEPHYROS 第43号

編集・発行 国立西洋美術館/平成22年5月20日(年4回発行)
協力(財) 西洋美術振興財団
印刷 (株) アイネット